

うだぢから

「うだぢから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」やNPO団体などを紹介します。
 問 政策推進課 ☎82・3910/IP☎88・9094

1 かき餅作りと初えびす

～おおうだ南部地域まち協～
 ～宇陀松山まち協～
 おおうだ南部地域まち協では、「清流米」を使った「かき餅作り」を行いました。カヤの実、赤エビ、三温糖、ゴマなどの具を入れた色とりどりのかき餅、もち米のほんのり甘い懐かしい素朴な味です。オープントースターで焼いて、そのまま食べるのが、一番美味しいという方がほとんどです。皆さんのお好みの食べ方は何でしょうか。焼く、揚げるなど、色々な楽しみ方があります。かき餅作り



▲みんなで作りました



▲たくさん来てくれました

を通して、故郷のなつかしい味を継承していきます。

2 ふるさと歴史探訪、中世の内牧地域を知る

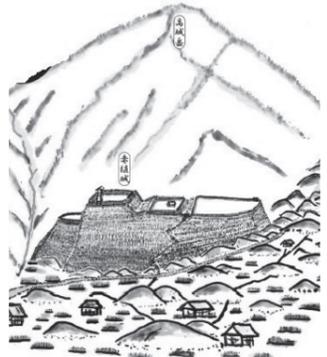
～内牧地域まち協～
 2月9日、たかぎふるさと館で「ふるさと歴史探訪、内牧の里を訪ねて」と題した歴史講演を開催し、自治会長や住民の方73人が参加しました。



▲講演する柳澤さん

講師は市の歴史に詳しい柳澤一宏さん(元文化財課職員)です。中世

に力を持っていた豪族の城や地域の大字名の由来など、自分たちが住んでいる場所の歴史や領主たちがどのような戦いをしてきたのか。そして何を守ったのかなど、わかり易くお話をいただきました。
 内牧地域には10自治会があります。平安時代や戦国時代からの地名が多く残っています。市内の地名は中世の城主の名前が大字名として現在まで残り、自治会の名称となっているのがよくわかりました。



▲中世の赤埴城イメージ

また、市内には約80の山城(土の城)があり、秋山城(宇陀松山城)、澤城、芳野城は有名です。内牧地域にも5つの城があり、「檜牧城」は檜牧氏、「諸木野城」は諸木野氏、「赤埴城、赤埴峯城、赤埴下志明城」は赤埴氏が城主をしていました。特に興味深かったのが、江戸中期

の赤穂事件の浪士の一人、赤埴源蔵重賢が宇陀の赤埴一族の可能性が有ることです。自分たちの地域の話に興味を持たれた方も多く、最後に複数の方から質問がありました。
 赤埴氏一族は、後醍醐天皇に仕えていたとの記録もあり、赤穂浪士とのつながりが分かれれば、内牧地域により興味を持ってもらえる方も増えるのではないかと楽しみです。

3 龍王ヶ淵の葦焼き

～向渕地区まち協～
 1月18日、室生向渕地区南部にある龍王ヶ淵で、「葦焼き」を行いました。



▲消防団の見守るなか

この葦焼きを実施するにあたり、昨年の12月に、まち協、自治会、向友会、土地関係者の約30人が集まり、龍王ヶ淵周辺に生い茂る「葦」を刈り取る作業をしました。

昨年、葦焼きは天候の影響で火付きが悪く苦勞しましたが、今年は大気に恵まれ順調に燃え広がりました。
 また、消防団にも協力していただき、火災予防に対応しながら約2時間の作業を無事に終える事ができました。
 この日、訪れた観光客は「こんなに近くで見るとは初めて。すごいです！」と言いつつ情景に見入られ、また事前に情報を得て来られた方など、皆さん熱心にカメラのシャッターを切っていました。
 この葦焼きは病害虫の駆除や湿地の保全などの効果があり、美しい景



▲美しい景色を維持するため



カタクリ

今、山では、樹下でカタクリが、かれんな美しい花を咲かせています。カタクリの生薬名は車前葉山慈姑といわれ、一七〇九年に書かれた大和本草に薬用植物として記載されています。
 鱗茎からでんぷんを採り、湿疹の散布剤としたり、熱湯に溶いて食用すると、滋養、強壮、整腸剤となります。また、胃腸疾患がある人やお年寄り、子どもが下痢をした時の食べ物として

使われていました。熱湯にくぐらせ、おひたし、マヨネーズあえ、からしあえ、酢みそあえなどにして食べてみてください。また、鱗茎は甘煮にしたり、みそ煮にして食べるのもよいでしょう。
 つぼみが付いたら、春先のごく若いつぼみから、花の開く寸前のつぼみまでを、花茎ごと引き抜いて、おひたしにして楽しむのもよいでしょう。



薬草道通(やくそうしゅうしょうよう) 毎回「薬草」に関わる内容を連載でお届けするコラムです。

※当市で「薬草活用講演会」をしていた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

問 商工業課 ☎82・5874 / IP☎88・9075